

福祉レク・ワーカー学習見直しの現状と見直し～ スクーリング内容の焦点化から学習内容の見直しへ～

基本の方向性

「福祉」という言葉が持つ、対象の全人的な幅・奥行き、援助の知識、技術の総合性と、学習者のニーズ、活躍を想定される現場に即して焦点を絞った、具体的、実践的な学びができることのバランスのとれた両立を目指す。

現行のカリキュラム、学習内容を、より実践的な力の獲得という視点から、いくつかの資格を活かす援助の現場、対象を具体的に想定した上で、それぞれに現行カリキュラムの学習目標、内容の焦点化（より現場に即した実践力の獲得という視点からの学習目標、内容の具体化）の試みを行う。そして、これらの試みの成果を踏まえた枠組み（幅・奥行き、総合性）の議論を行う。

こうした過程を随時公開し、幅広くいただいた意見・助言・効果的な教育実践例等とスクーリングでの試行結果を、福祉レクリエーションと、介護等福祉各領域（でレクリエーションに深い造詣を持つ実践、研究、教育者）それぞれの専門家により検討し、具体的な内容等を固めていく。

現状：スクーリングの学習内容の焦点化（学習成果の明確化）

以下、3つの課題を措定し、その達成の具体的な目標として、5つの学習内容の柱 焦点を想定している

一人ひとりの対象者にとってのレク援助の見直しを持つことができるか

焦点1：個別レクリエーション援助計画

- ・計画表（あるいはワークシート）を作成し、その内容を主要な評価の対象とする
- ・レク援助の長期、短期目標が根拠を持って適切に設定できているか
- ・レク援助の短期目標に向けて、意図的、効果的にレク援助のチャンスを選択、配置できているか

多くの対象者がそれぞれの目標に向けて参加できるレク援助のチャンスを準備できるか

焦点2：レクリエーション・プログラムの総合的な計画

- ・レクリエーション援助のチャンスを、多くの対象者が個人の目標をもって参加できるように意図的に配置できているかどうか
- ・計画表（あるいはワークシート）を作成し、その内容を主要な評価の対象とする

焦点3：個別のレクリエーション・プログラムの計画

- ・参加者個人の目標に対応した意図的な進行プランになっているかどうか
- ・計画表（あるいはワークシート）を作成し、その内容及び対象者、家族等を想定したプレゼンテーションを主要な評価の対象とする

個別のレク援助のチャンスで、対象者に適切にかかわることができるか

焦点4：集団を育み、強化するレク援助技術、及び集団の力動を個人の援助に活用するレク援助技術

- ・個別のレク・プログラム計画と参加者の個人目標に応じた意図的なアクティビティの選択、進行手順の構想
 - ・アクティビティの展開シートの内容と家族等を想定したプレゼンテーションで評価
- ・集団を育み、強化するための技術、及び集団の力動を活用するための技術
 - ・5名程度の対象者役を活用したロールプレイによる実技を通して評価
 - ・あわせて、「記録と評価」の学習成果も取り上げる方向で件 脳（学習の焦点とすることも視野に）

焦点5：1対1のほか、様々な場面、状況で適切に1人の対象者とかかわり、良好な関係を構築できるレク援助技術

- ・対象者との1対1の関係を構築する技術、集団的なかわりの中で個別の対象者に向き合い、援助する姿勢、技術
- ・集団への、あるいは集団を介したレク援助のロールプレイの中で評価

現在のスクーリング内容の焦点化から福祉レク・ワーカー学習見直しに向かう見直し

デイサービスでの活用という共通の具体的な想定の中での学習内容の検討、試行

現在のスクーリング見直し

上記の成果を踏まえて、学習の柱となる項目、方法、時間、順序等枠組みを整理

8～9月に整理 結果の公開。及び広く皆さんからご意見をいただく予定

さらに、いただいたご意見を踏まえた再整理の結果について、11月を目処に公開し、広く意見を求めつつ、平行して後期のスクーリングでも検証

上記で整理した枠組みをベースに、介護の他領域、福祉の他領域（障害者、保育、子育て支援、精神等病院等）での焦点を絞った学習内容の検討、試行

福祉レク・ワーカーとしての学習の柱となる項目、方法、時間、順序等枠組みと、その中で活動の場に応じて焦点化された学習内容、方法等を整理

共通のカリキュラム（科目、学習目標、時間）と、学習者の活動の場に応じて焦点化された学習内容、学習の手順・方法の組み合わせ

なお、随時中途の到達点を公開し、いただいた意見を踏まえた最終的な到達点をH23年秋口に公開することを目指す

現在想定しているAプロ、Bプロの構成

A1: 行動変容を促すレク援助のデザイン

- ・学習の焦点としての実践力 の全体像（意図をもった支援の実際）と、ゴールとしての実践力像（意図に基づく個別のプログラムやそれらを選択利用して変容する個人の援助過程）を共有する
- ・レク援助の長期目標、短期目標をたて、複数のレク援助のチャンスを活用しながら、本人が目標に自ら近づいていくように援助する過程の実感

A2: 個別のレクリエーション・プログラムの計画と集団の力動を活用するレク援助技術

- ・レク援助の長期、短期目標への見直しに基づいた個別のレク・プログラムの計画の立案（そこでの個人目標の設定と一体的に）
- ・個別のレク・プログラム計画全体としての目標と個人目標に応じて集団の力動を引き出し、活用するグループでのレク活動の展開スキル
- ・個別のレク・プログラム計画全体としての目標や個人目標の達成という視点での、レク活動の記録と評価

B1: 1対1のレク援助技術（コミュニケーション・ワーク中心）

B2: 社会資源の活用（レクリエーション・プログラム計画の立案・実現のために。「参加」「活動」の実現のために）

B3: 個別レクリエーション援助の計画

- ・生活の自律、介護目標、施設での介護目標と対応したレク援助の長期、短期目標の設定
- ・レク援助の長期、短期目標への見直しに基づいた、レクリエーション・プログラムの総合的な計画の立案
- ・レクリエーション・プログラムの総合的な計画に基づいた、個別のレクリエーション・プログラムの全体としての目標設定、評価

補足資料 :高齢者のデイサービスを具体的な活動の場とらえた学習内容の焦点化作業の全体像

<実践力像(学習成果):レク援助の具体的な実現> 現在のスクーリング学習内容の見直しの前提として

デイサービス等において、**レク援助**を行えること

次の a~ cのことがらを、本人の残された人生の過ごし方や長期、短期の目標に向かう見直しに基づく明確な意図をもって実施・評価・修正することができる

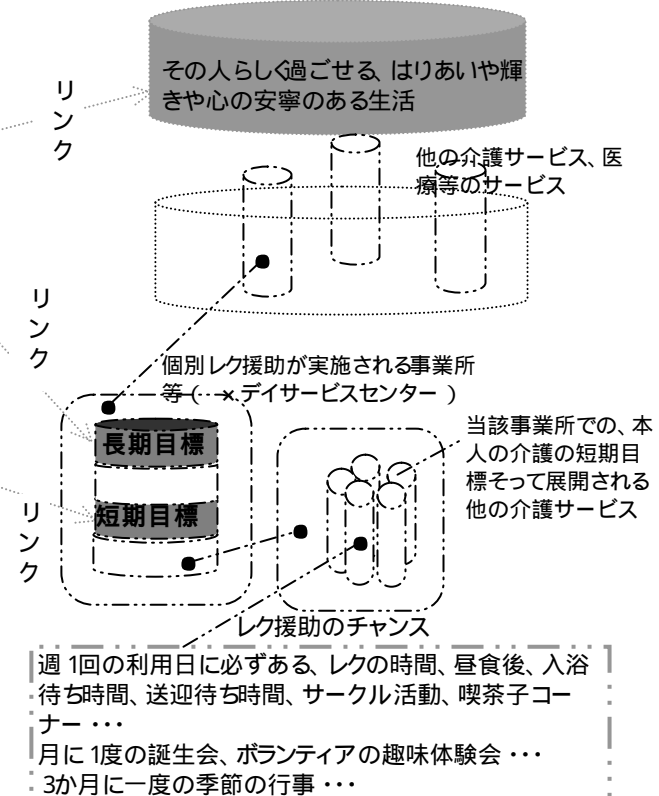
a.レクリエーションとしてのレクリエーション・プログラム(アクティビティ、レクリエーション的なサービス等を行う1日や週間の計画に定例的に組み込まれている時間)

b.行事(季刊、年間等で想定されている施設内外の行事、イベント)

c.利用者、職員のコミュニケーション促進の時間、空間(入浴や昼食後の憩いの時間、喫茶スペース等)

上記 a~ cの中で、ひとりひとりの利用者の目標実現のための適切ななかかわりができる

【実践力発揮の舞台(焦点)】



実践力 援助を実現するための土台(見直しに基づく意図を持つ力、意図を伝える力)>

個別レクリエーション援助の計画(個別援助計画とリンクした、個人への援助の見直し)

(残された人生のあり方、実現したい生活(の大きな柱としての楽・快・彩のキーワードで表される時間))

レクリエーション援助の長期目標

個別援助計画の長期目標を楽・快・彩といったキーワードで表される活動(レクリエーション活動)ができるようになっていること、あるいは、レク活動への参加の姿としてとらえ直す

レクリエーション援助の短期目標

レク援助の長期目標に至る多段階の過程の最初の段階の目標として、個別援助計画の短期目標をレクリエーション活動ができるようになっていること、あるいは、レク活動への参加の姿としてとらえ直す。

レクリエーション・プログラムの個人目標

レク援助の短期目標に至る多段階の過程のひとつの段階の目標として、参加する個々のアクティビティやプログラムの中で、どのような外面的・内面的な充足を得るのか(したいことができた)

チャンスの選択:レク援助のチャンスの選択肢から、大きな意味をもって援助に活用するチャンスを並び、組み合わせる

対象者の「今、この時」一人ひとりの対象者が、様々なレク援助を有効活用する見直しをもつ

実践力 援助の機会となる事業、プログラムを準備する力>

レクリエーション・プログラム計画(施設等で実現できる支援のチャンスのデザイン)

レクリエーション・プログラムの総合的な計画(全体事業の計画)(上記個別レク援助計画枠内、等々の意図的な配置)

1日の中でのゆったりできる時間やスペースの意図的な配置、レクリエーションの時間の週間や月間等の意図的な配置、年間等の行事の意図的な配置等、レク援助のチャンスの選択肢全体を総覧する(見える化する)計画

個別のレクリエーション・プログラムの計画(上記個別レク援助計画枠内、等々の個別)

1回のプログラムの進行プラン(全体としての目標、アクティビティ等の配置・展開、参加者の個人目標に対応したかわりあいのポイント等)

多くの対象者が、それぞれに意味のある参加ができる(活用しがってのよい)事業が準備される

実践力 目標にむけた本人自身の変容(への姿勢)を促すように意図的、計画的にかかわりあえる力>

1対1のレク援助技術:レクリエーション活動の前提となる良好な関係構築、レクリエーション活動の中でのかわりあいが、1対1のレク活動の展開

集団の力動を活用するレク援助技術:レク活動の中で集団の力動を引き出し活用する技術、集団の力動を引き出し活用するためのアクティビティ等の選択、アレンジ、展開の構想